

# 生物多様なごや戦略実行計画 2030 重点方針掲載施策の主な成果と課題

## 重点方針1 生物多様に配慮したまちづくりの推進（実行計画43～50ページ参照）

### <主な成果>

施策	成果概要
<p>①保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（OECM）の認定促進と保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開発における事業者の自主的な生物多様性への配慮を促すため、生物多様性保全上の重要なエリアを可視化したマップ「生物多様性重要エリアマップ」を作成し、ウェブ上に公表し、運用を開始した</li> <li>●本取り組みが国土交通省グリーンインフラ大賞優秀賞に選定 ※「㊦まちづくりに活かすための生きもの情報の提供」にも貢献</li> </ul> <div data-bbox="958 448 1400 754"> </div> <p>生物多様性重要エリアマップ制度チラシ ※詳細は配布チラシ及びウェブ（QRコード）を参照</p> <div data-bbox="1592 448 2011 743"> </div> <p>グリーンインフラ大賞優秀賞</p>
<p>●市有地の2か所が自然共生サイトに認定され、記念イベントや広報（広報なごや、SNS等）を積極的に実施 ※令和7年度は猪高緑地（名東区）を申請中、他所でも検討中 （参考）民有地2か所 ・テクノ中部（株）屋上ビオトープ ・（株）三五 EC035</p>	<div data-bbox="969 847 1350 1134"> </div> <p>なごや東山の森（2024.3認定）</p> <div data-bbox="1391 847 1771 1134"> </div> <p>八竜緑地・金城学院大学の里山（2025.3認定）</p> <div data-bbox="1776 890 2089 1106"> </div>

⑤ 生物多様性に配慮した緑化の推進

- 事業者等と協働で「都心の生きもの復活事業」を実施。累計13か所（R5年度：2か所、R6年度：4か所）

※R7年度も3か所（竹中工務店名古屋支店、三菱電機名古屋製作所、矢作建設工業（株））で実施

- ガイドラインポケット版（A5版）の作成、地域性種の啓発物品（ミニうちわ）を作成し、イベント時に配布（※配布物参照）

- 「都心の生きもの復活事業」で設置した西庁舎前の花壇を市内の専門学校と協働管理の覚書を締結し、広報を積極的に展開



（株）サンゲツビオトープ



星が丘テラス（左：設置場所、右：学生と看板検討）



ガイドラインポケット版



市と専門学校における協働管理（左：懇談の様子、右：水やり）



- 市施設における生物多様性に配慮した緑化の推進を行った
- 緑化制度（NICE グリーン制度）における生物多様性の観点の配点追加
- その他、緑に関する既存緑化・まちづくり関係制度で活用できる、侵略的外来種リスト及び生物多様性向上在来種のリストの作成中



北環境事業所前花壇や中村区役所屋上における生物多様性緑化の実施



<p>⑥緑の保全・創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市計画公園緑地内の樹林地保全を推進するためネイチャーポジティブ等の観点を踏まえた「なごやの森づくりガイドライン」を令和7年3月に改訂</li> </ul>	 <p>なごや森づくりガイドライン</p>	 <p>森づくりガイドライン勉強会の様子</p>
<p>⑦都市農地の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有機農業の推進の一環として、有機農業を広くPRするため南陽地区において有機農業により栽培されたお米180俵（全校一食分）を市内の小学校等の給食へ提供</li> </ul>		 <p>有機米栽培・収穫</p>
<p>⑧生きものにもやさしい魅力ある水辺空間の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新堀川の悪臭改善のため、井戸、親水空間を整備し、地下水の導水を開始</li> <li>●親水広場の植栽は生物多様性にも配慮</li> <li>●令和7年度には、新堀川沿川に、さらに3本の井戸を設置し導水予定</li> </ul>	 <p>事業の啓発看板</p>	 <p>放流箇所の様子</p>  <p>水路 敷地西側から</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中川運河の再生として、魅力ある水辺空間の形成のため、沿岸用地への憩い・にぎわい施設の誘導や緑地・プロムナードの設置等を実施</li> </ul>	 <p>堀止緑地(H29)・プロムナード(R5)の整備</p>	 <p>にぎわい施設とのプロムナード接続(R5)</p>
<p>⑨ 藤前干潟の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本国内では、新潟市、出水市に次ぐ3番目ラムサール条約湿地都市認証制度に基づく「湿地都市」に認証された。ジンバブエで開催された認証式に藤前干潟ユースとともに参加し市の取り組みを発表。</li> </ul>		

#### <課題>

- 緑の確保に向けた取り組み
- 本市が湿地都市に認定されたことを契機にした湿地保全の取り組み



## 重点方針2 社会変革につながる取り組みの促進（実行計画51～56ページ参照）

### <主な成果>

施策	成果概要		
<b>① グリーンインフラの取り組みの推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係局で構成される「グリーンインフラまちづくり推進会議」を開催し、グリーンインフラガイドラインの策定について検討（令和7年度末公表予定）</li> <li>名城公園において、生物多様性緑化や雨庭、ヒートアイランド対策のための舗装を取り入れた啓発スポットの整備や三の丸地区において、道路等への雨庭の導入に向けた検討等を実施</li> </ul>	 <p>名城公園グリーンインフラ啓発スポットの整備（2025.10.1）</p>	
<b>② 環境や社会に配慮した製品・サービスの普及促進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画や私たちにできることを分かりやすく説明したパンフレット「私たちの暮らし×生物多様性」を作成（5,000部/年配布）</li> <li>イベント時（環境デーなごや、生物多様性センターまつり）における生物多様性と買い物の行動変容ゲームの実施（約700人/年が体験）</li> <li>なごやエシカルフェアへの出展などによる促進</li> </ul>	 <p>パンフレット ※詳細は配布資料参照</p>	 <p>買い物行動変容の体験 （インターン生も参加）</p>  <p>なごやエシカルフェア</p>

<p>⑤地域循環共生圏（ローカルSDGs）の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 名古屋市の水源地の一つである長野県木祖村との協定に基づいた森づくり事業の一環として、森林整備やバスツアーを実施</li> <li>● 木材利用の促進を行うため、アジア・アジアパラ競技大会期間中に報道関係者などの活動拠点となるメインメディアセンターに木祖村の間伐材を活用した什器の設置や木祖村の間伐材を活用した啓発品の配布を行い、普及啓発を実施する</li> </ul>	 <p>植樹の様子（バスツアー）</p>  <p>木祖村の間伐材を活用した啓発品（箸）</p>
<p>⑥生物多様性に配慮した事業活動の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業者等における生物多様性の取り組み促進の一環として、「なごやネイチャーポジティブ宣言」に賛同し、ともに取り組んでいただける事業者・団体を認定し、応援する「なごやネイチャーポジティブパートナー」制度を開始。</li> </ul> <p>専用サイト（※配布チラシ QRコード参照）を活用し、認定団体の生物多様性に関する取組の発信や認定団体同士のマッチングを行うことにより、ネイチャーポジティブ実現に向けて取組を促進（参考）認定団体数128者（令和7年10月現在）</p>	 <p>募集チラシ（※詳細は配布資料）</p>   <p>パートナー間の連携事例 （山崎製パン×なごや東山の森づくりの会）</p>

#### <課題>

- グリーンインフラの社会実装や拡大に向けた取り組み方策
- ネイチャーポジティブパートナー制度を創設したもののマッチング事例が少ない
- 国においてネイチャーポジティブ経済移行戦略が策定されたが、行動する企業はまだ少ない状況



### 重点方針3 自然と共生する人づくり（実行計画57～62ページ参照）

#### <主な成果>

施策	成果概要	
①日常生活を通じた生物多様性の行動促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東海三県一市グリーン購入キャンペーンの実施 スーパー、コンビニエンスストア、ホームセンター等 3,788 店舗の協力により、ポスターの掲示等でのグリーン購入の啓発を行ったほか、環境ラベルのついた商品、地産地消商品、エコ文具をはじめ環境配慮商品を購入した方を対象に懸賞応募企画を実施</li> <li>●セブンイレブンジャパンとの協働により小学校で出前講座を実施し、店舗に置く環境配慮マーク等のPRポップを作成し掲示(R6 年2校で実施)</li> </ul>	 <p>キャンペーンパンフレット</p>  <p>店舗内でのPRポップ掲載</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●東山動植物園における生物多様性の普及啓発の実施 事例：行動変容を促す普及啓発展示（オランウータン舎看板）、環境教育プログラムの実施</li> </ul>	 <p>普及啓発看板</p>  <p>環境教育プログラムの様子</p>
②藤前干潟を通じた人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラムサール COP15（ジンバブエ）に藤前干潟ユースとともに参加し発表の機会の確保、湿地都市を契機とした市民向けシンポジウムを開催し市民普及啓発を強化</li> <li>●オーストラリア・ジロング市や国内湿地との交流事業を実施</li> </ul>	 <p>藤前干潟ユースによる発表の様子（COP15）</p>  <p>ジロング市との交流事業の様子</p>

<p>③ なごや環境大学における人づくり・人の輪づくり</p>	<p>● 生物多様性に係る共育講座、共育ゼミナール、主催講座等を実施し、生物多様性のために行動し、行動する人づくりや人の輪づくりを推進 講座等の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユース提案型 湿地の未来プロジェクト</li> <li>・ (共育ゼミナール) 日本庭園と生物多様性</li> <li>・ (共育講座) 地域循環型野菜「おかえりやさい」を知って学んで味わって楽しもう！ など</li> </ul>	<div>    </div> <p>なごや環境大学ガイドブック      なごや環境大学講座等の様子</p>
<p>④ なごや生物多様性センターにおける人づくり</p>	<p>● ユース世代のさらなる参画促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユース世代による生物多様性カフェの実施</li> <li>・ 専門講座の開催（植物標本作成講座・昆虫パラタクソノミスト養成講座・液浸標本講座）</li> </ul> <p>● 南山大学が授業の一環で猪高緑地の保全活動に参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外来スイレン防除活動</li> </ul>	<div>    </div> <p>生物多様性カフェ      昆虫パラタクソノミスト養成講座      外来スイレン防除活動</p>
<p>⑦ 自然と親しむ機会の提供</p>	<p>● チョウを呼ぶまちプロジェクトの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 知る：シンポジウムの開催 ⇒ 「トーク&amp;クイズでいきものが蝶鳥超好きになるなごや生物多様性シンポジウム」約 1000 人の応募（中日新聞と共催し、広報の過程でもPR）</li> <li>◇ 呼ぶ：市内一斉緑化、ミニうちわ作成配布 ⇒ 事業者や幼稚園等に苗木を配布・緑化の実施 ⇒ チョウを呼ぶ地域性種を漉き込んだミニうちわを作成・配布し、家庭での取組みを促進</li> <li>◇ 調べる：なごやいきものクエスト（※次頁参照）</li> </ul>	<div>    </div> <p>シンポジウムチラシ      保育園での緑化の様子（ナミアゲハ飛来に喜ぶ）      地域性種を入れたミニうちわ</p>

#### <課題>

- 買い物機会における取り組みを進めるための事業者との調整が課題（複数の企業と交渉するも難航）
- 普及啓発の取組みはしているが市民の行動変容には至っていない（アンケートでは、認知度は高いが行動している人の割合は相対的に低い）



重点方針4 生物多様性保全の拠点・ネットワークの強化（実行計画63～66ページ参照）

<主な成果>

施策	成果概要	
<b>①</b> なごや生物多様性センターの拠点機能の強化	<ul style="list-style-type: none"><li>●標本・生体類を活用した啓発ツールの作成 ・実物を目で見て触れられる展示品の作成</li><li>●保全団体と事業者とのマッチングにより、現場における保全活動の直接的な支援を実施<ul style="list-style-type: none"><li>① 東山新池における外来スイレン防除（東山の森づくりの会×千種ライオンズクラブ）</li><li>② 猪高緑地における竹林の間伐（名東自然倶楽部×EPOC）</li><li>③ 先進技術を活用した両生類の産卵場整備（なごビオ両生類部会×サンリット・シードリングス）</li></ul></li></ul>	<div></div> <div>ミニ博物館・ミニ水族館（センターまつり）</div> <div>東山新池での外来スイレン除去</div>
<b>②</b> 調査・保全活動に関わる人の拡大と連携強化	<ul style="list-style-type: none"><li>●スマホアプリ「Biome（(株) バイオーム）」を活用して、R5年から夏休み期間を中心になごやいきものクエストを実施<ul style="list-style-type: none"><li>⇒実績（R6：1,761人参加、25,314投稿）</li><li>⇒各種自然観察会での活用、自然共生サイトモニタリング、重要エリアマップにも活用</li></ul></li></ul>	<div></div> <div>チラシ※配布物参照</div> <div>クエストレポート</div> <div>活用の様子</div>

<p>③地域の保全活動を持続可能なかたちで進めるための仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●なごやネイチャーポジティブパートナー同士のマッチングを実施 ⇒名古屋市守山区にある自然共生サイト「八竜緑地・金城学院大学の里山」の保全活動団体（水源の森と八竜湿地を守る会）と同区内の企業（フジ建設（株）） ⇒マッチングイベント開催を検討中</li><li>●猪高緑地におけるサンゲツの保全活動</li></ul>	 <p>八竜緑地・金城学院大学の里山の事例</p>	 <p>猪高緑地の事例</p>	
<p>④自治体連携の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●生物多様性自治体ネットワーク（202 自治体が加盟）代表都市（R2.2～）として、自治体の取り組みをけん引 ⇒オンライン勉強会の開催 ⇒広報普及啓発部会で事例共有・意見交換 ⇒毎月の事例発信（ウェブ掲載） ⇒J-GBF と協働で地域連携フォーラム実施</li></ul>	 <p>広報普及啓発部会の様子      事例発信（ウェブ掲載）      地域連携フォーラムの様子</p>		

<課題>

- 関係機関連携の把握とさらなる連携